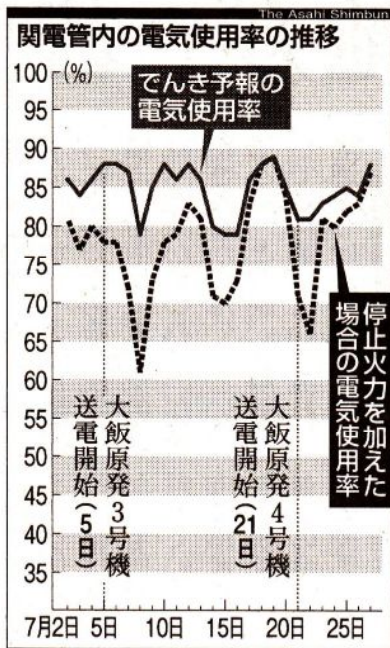


😊 でんき予報 実態と差!?



「でんき予報」では関電が毎日、ピーク時の供給力に対する最大需要の割合(電気使用率)を試算して公表している。90%未満なら、需給が「安定的」であることを示す緑の顔マークになり、いまのところ、緑以外の予報は出ていない。

ただ、同じ緑でも、大飯原発3、4号機が相次いで停止火力を加えた場合は、5日に大飯3号機が必要が低かった7月前半では、5日に大飯3号機が

火力フル稼働前提とせず

関西電力が管内の電力需給の状況を自社のホームページで知らせる「でんき予報」について、「実態を反映できていない」という指摘が出ている。関電が当日の需要予想をもとに、余分な火力発電所を停止した後の供給力をもとに需給状況を示しているため、本来の実力よりも厳しい需給に見えるためだ。

▼7面 中小企業限界

79%→計算では61%の日も

送電を始めると、次々と余った火力発電所を停止。需要が低い土日は特に停止が多く、7月8日は故障中の1基を含む計14基、700万キロワット以上の火力発電所を止めて、供給力を抑制した。8日のでんき予報は79%だったが、停止火力の供給力を加えると、使用率は61%に下がる計算だ。

一方、梅雨明けで急に需要が高まった18日や19日のように、火力発電所をフル稼働した日は、でんき予報の供給力と実力が一致する。最近も真夏日続きで需要が高く、停止中の火力が少ないため、ほぼ一致している。

「余分な火力発電を停止すること自体は、当然の対応」というのが関電の言い分だ。しかし、電力需給の実態を知らせ、節電に役立ててもらおうという「でんき予報」の趣旨からすると、予報はフルパワーの供給を前提にすべきではないかという批判は多い。(福間大介)